読者・筆者・文中人物に着目した説明的文章の学習指導

兵庫教育大学附属小学校　吉川 芳則

説明的文章の学習指導を改善するためには、教材の特性に応じた多様な言語活動を設定し、それを学習指導過程に適切に位置づけ、展開することが重要である。これについての具体的な方略として、発表者は、

①説明的文章教材の特性
②学習内容
③ことばの機能的特性（＝学習者が夢中になる活動類型）
④具体的言語活動

の四つの要素を構造的、総合的に把握することによって、「単元（学習指導過程）における中核的な学習活動」を導き出し、説明的文章の学習指導を多様化、活性化できるものと考えている。中でも、①説明的文章教材の特性と③ことばの機能的特性（＝学習者が夢中になる活動類型）とは相互関連が深く、学習活動を多様に考察するためにはこれら2要素の関連的な把握が鍵になると捉えている。

例えば①説明的文章教材の特性は、従来の文章読論的特性＞にく子どもの側から教材を捉えるときの特性（具体的な内容としては【既知性】【具体性・抽象性】【イメージ性】【ストーリー性】など＞を付加して捉えること、また③ことばの機能的特性（＝学習者が夢中になる活動類型）については、【学習活動の立場】【学習活動の観点】【学習活動の具体的方法】の三つの側面から学習者が夢中になる活動を見出すことを意図している。

本発表では、①説明的文章教材の特性における【ストーリー性】を有する教材、とりわけ「文中人物」を有する教材を用いた際の学習指導について、③ことばの機能的特性（＝学習者が夢中になる活動類型）における【学習活動の立場】としての「読者」「筆者」「文中人物」の三者に着目し、これらを相互作用的に組織化した場合の意義と課題について考察を行う。